



續
百
八
鳥
上



し

井式

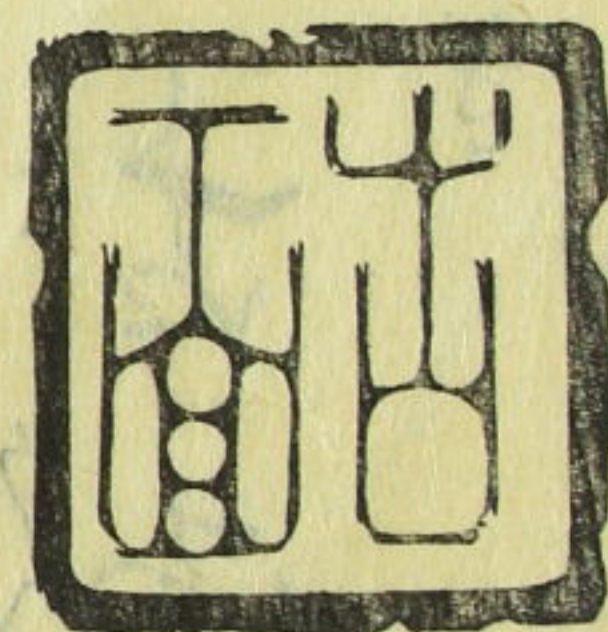
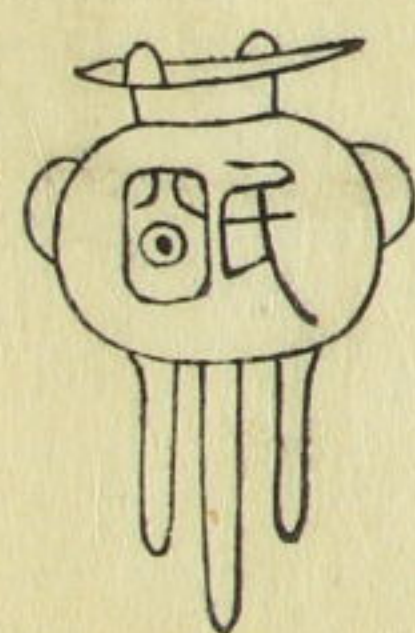
新井 伊勢の原
わが中 相違あり。此商人は
涼みおとす。此川のほとり
新井 十二のころ。さても
あそびのおもひ。おもしろ
や。味あふ。国と。いふ。さう。

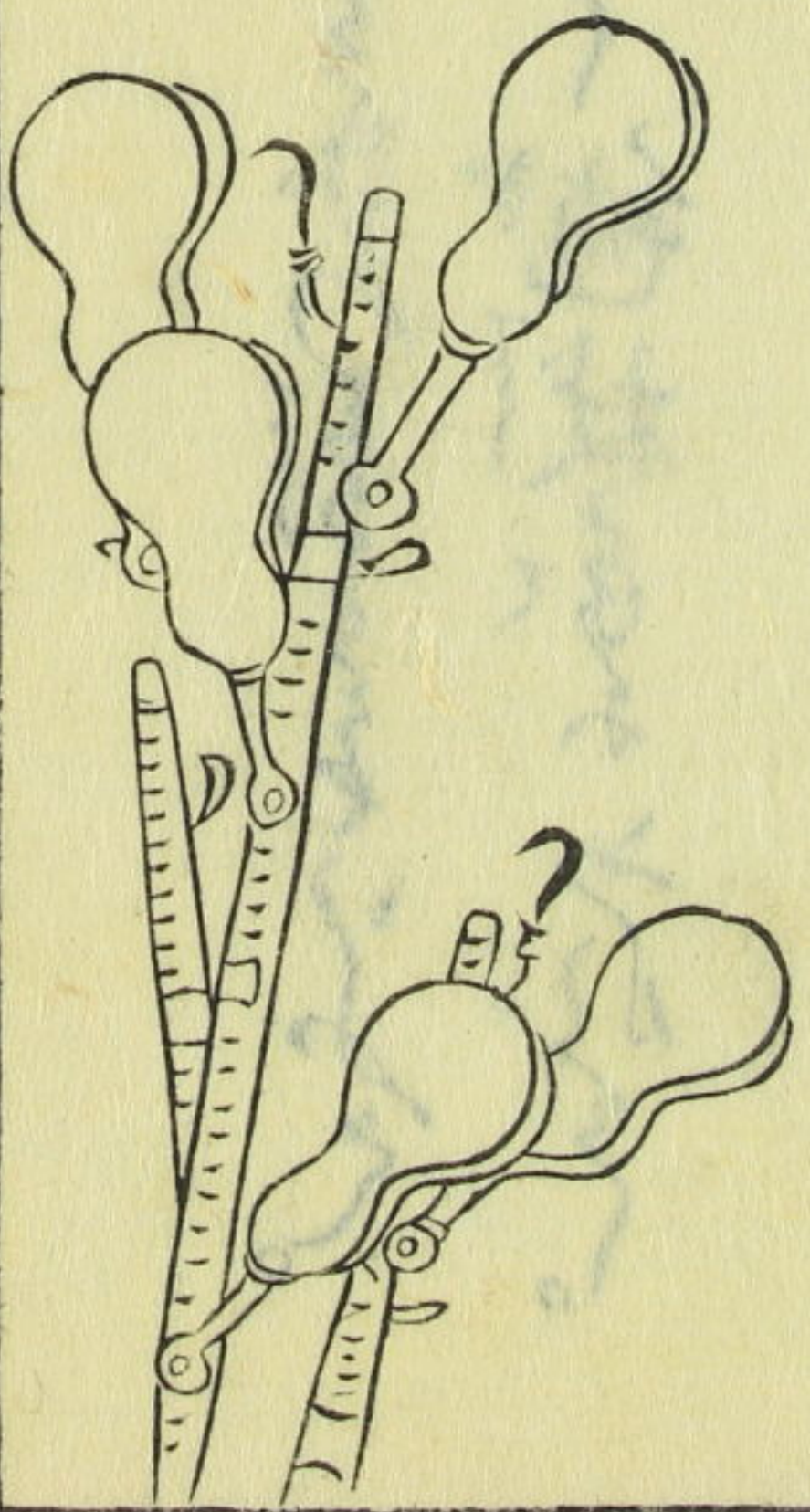
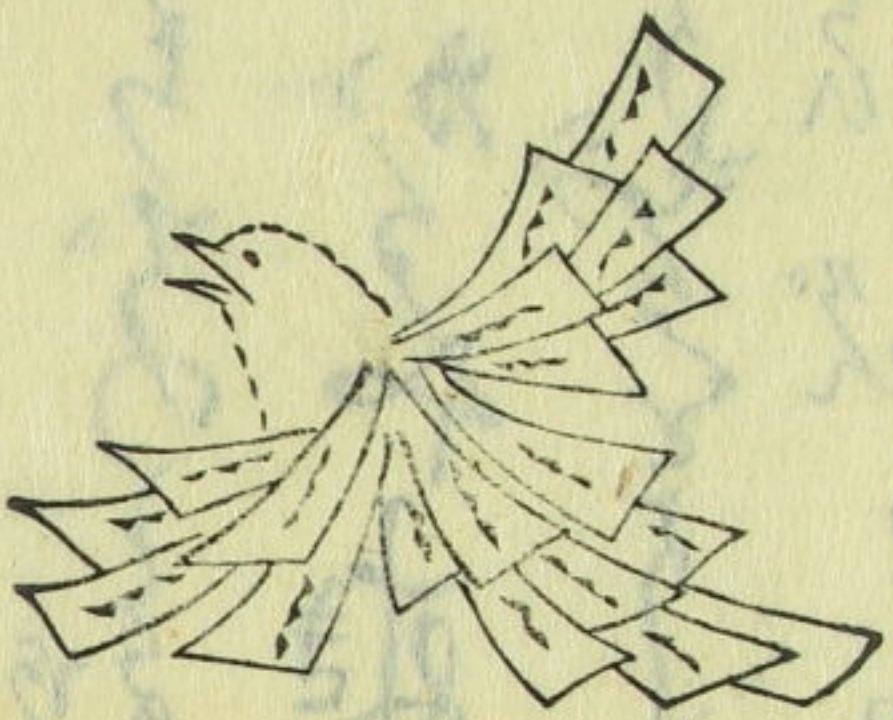
雲英文庫

見五
百
化
魯

讀

海





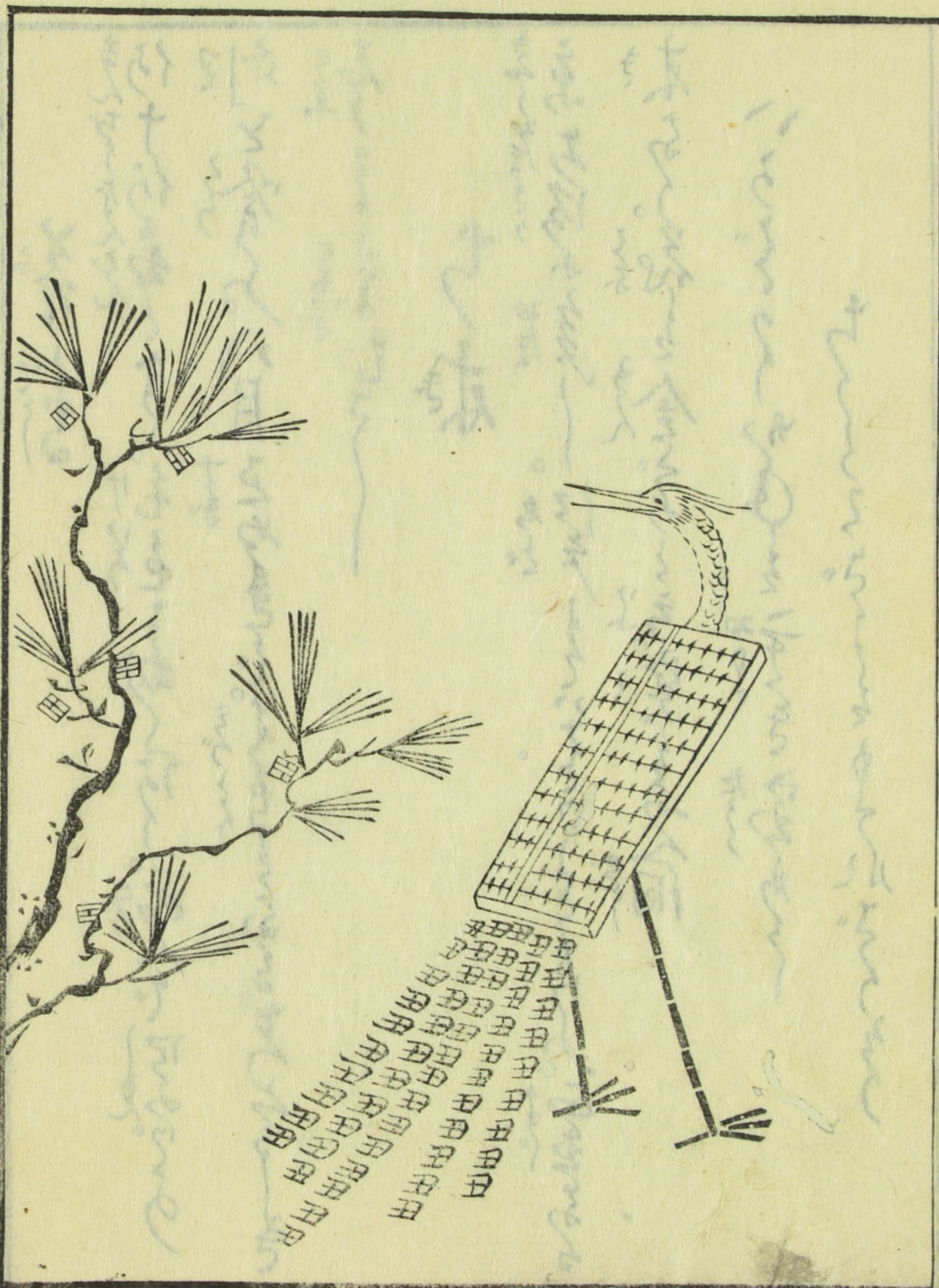
續る上

新巻

ちんぢうなんどん
 何十何あとなう。毛色さぬく何う。好んで何あづの
 利と喰ふ。八月すきに何あづ。毛色さぬく何う。好んで何あづの
 ちんぢうなんどん
 何十何あとなう。毛色さぬく何う。好んで何あづの

ちんぢ

ちんぢうなんどん
 何十何あとなう。毛色さぬく何う。好んで何あづの
 利と喰ふ。八月すきに何あづ。毛色さぬく何う。好んで何あづの
 ちんぢうなんどん
 何十何あとなう。毛色さぬく何う。好んで何あづの



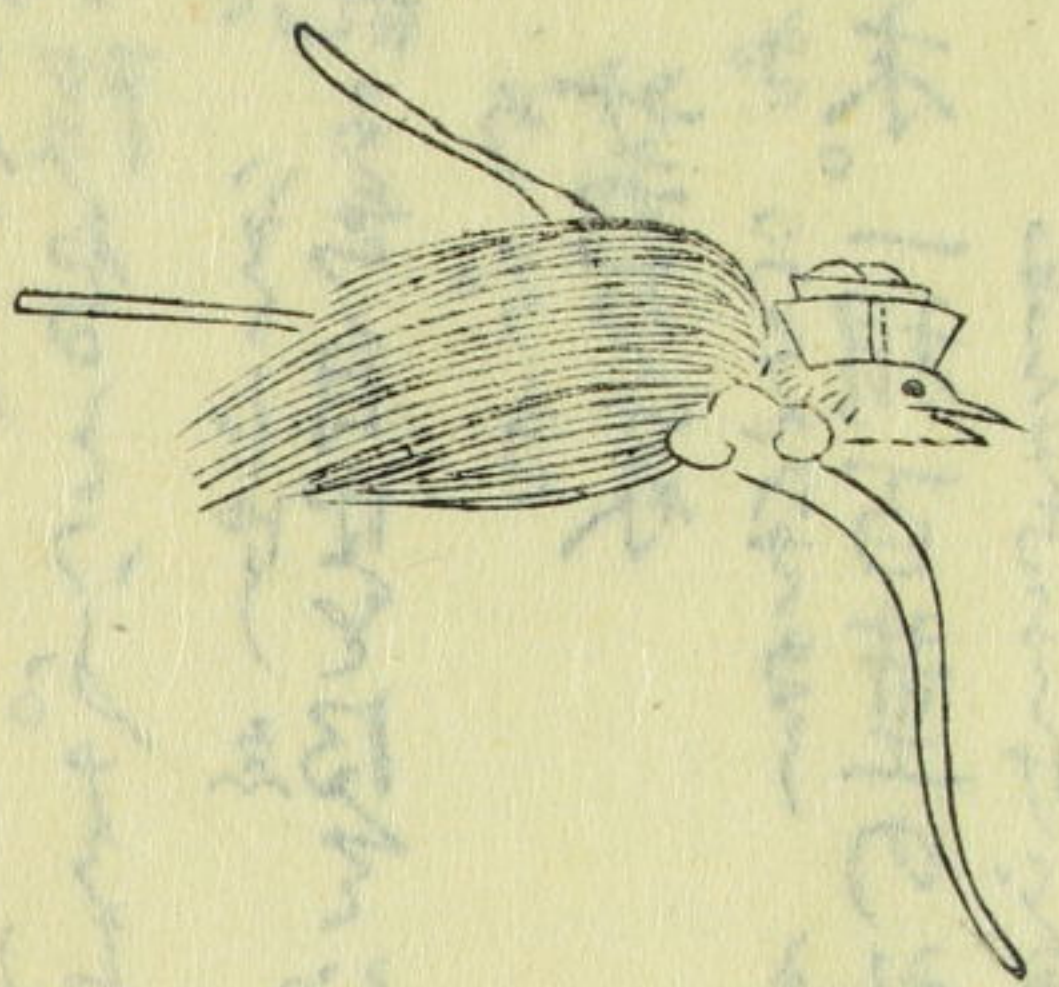
漢百上六

粉雪

商あすむで分限と喰ひ生れて大なるもの。
 是を分限といふ。すなはち。卵のハナといふ
 塵効記より自由と云ふ。無羽にて翅をばうと

ササユメ

一名算木。一根百莖の物なり。郡康第が曰。花を
 変易といふ。又日用卦傳抄云。実ハハツ六ツケるといふ。
 何もしな。何れもね。あや



さき

常々好んで舞臺を飾る。其の姿は、
 常々好んで舞臺を飾る。其の姿は、
 常々好んで舞臺を飾る。其の姿は、

めん

けき。九年、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 けき。九年、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
 けき。九年、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、



續百上十

あ
あ
あ

いちごちどろ
一名猪毛

[illegible]

角鬘

一石入

大入を東^{ひがし}よりぞすのわら

河津

一名いぬきり

陸ふまてふ里ふまけ柏多る

鐘入

一名色多

人々の心とちよるちよる

祐成

一名掃髮帚

峰陽の旗を以てや
葵の香

元服

一各

花を^なや^き菊^なひ^なで^なき^なふ^なと^なり

於山

浮世いふじん来き

右畔李公

花さく。実ハ子ノ身ハあかる。女ノ身ハ
 花さく。実ハ子ノ身ハあかる。女ノ身ハ

續百上十

